



業界レポート
プラスチック製品製造業
産業分類コード18

あなたの会社の **e-審査部®**
リスクモンスター株式会社

市場概要

(1) 営業種目

- ① 熱可塑性樹脂(加熱により変形): ポリエチレン、ポリスチレン、PET樹脂
 - ・ポリエチレンの用途…ごみ袋、レジ袋、シャンプーの容器
 - ・ポリスチレンの用途…文房具、プラモデル、カップ麺の容器
 - ・PET樹脂の用途…ペットボトル、包装フィルム、衣料用繊維
- ② 熱硬化性樹脂(加熱により硬化): フェノール樹脂、メラミン樹脂
 - ・フェノール樹脂の用途…自動車部品、電気製品
 - ・メラミン樹脂の用途…食器、内装材

(2) 業界規模

13兆1780億円

上場企業数 39社

非上場企業数 11,840社

(3) 業界サマリー

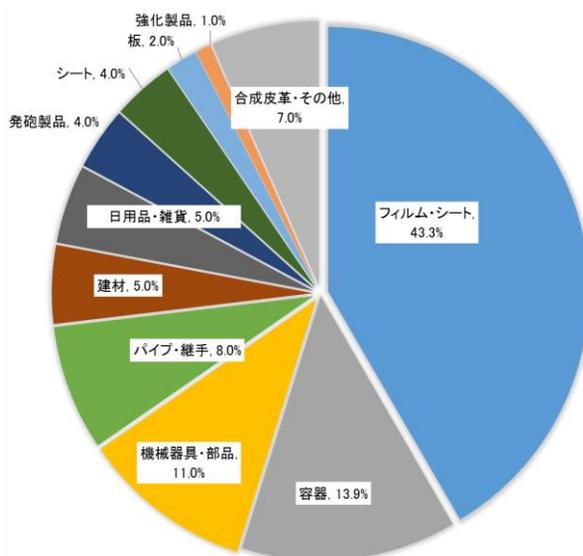
プラスチック製品とは、各種プラスチック樹脂(ポリエチレン、フェノール樹脂等)を成形・加工した製品であり、様々な用途で使われている。

主な製品としては、フィルム・シートが最も多く、液晶用・工業用・食品用などに活用され、全体の43.3%を占めている。そのほか、ペットボトルなどの容器類(13.9%)、家電や自動車などに使われる機械器具・部品(11.4%)の割合が高い。

樹脂からプラスチックへの成形法は多数あるが、中でも熱可塑性樹脂をシリンダーに投入し、過熱溶解させ、金型に充填し成形する射出成形法は、複雑な形状や精密を要する部品や製品を短時間で安価に大量生産できるため、高付加価値成形品の多くに使用されている。

また、原料樹脂をシリンダー内で過熱混練し、金型を通してシートや断面形状の複雑な異形製品成形する押出成形は、主にフィルムやシートの製造に使われる。

プラスチック製品の用途別生産比率



出所: 平成28年度生産動態統計年報
紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統計編(経済産業省)

ビジネスモデル

プラスチックは、原油→石油精製工場→ナフサ→プラスチック原料(合成樹脂)→プラスチック成形→加工→製品という工程を経て製品化される。プラスチック製品製造業者を大きく分けると、原料(樹脂)をプラスチックに成形する一次加工業者と、成形されたプラスチックの組立て・塗装・印刷を行う二次加工業者に分けられる。

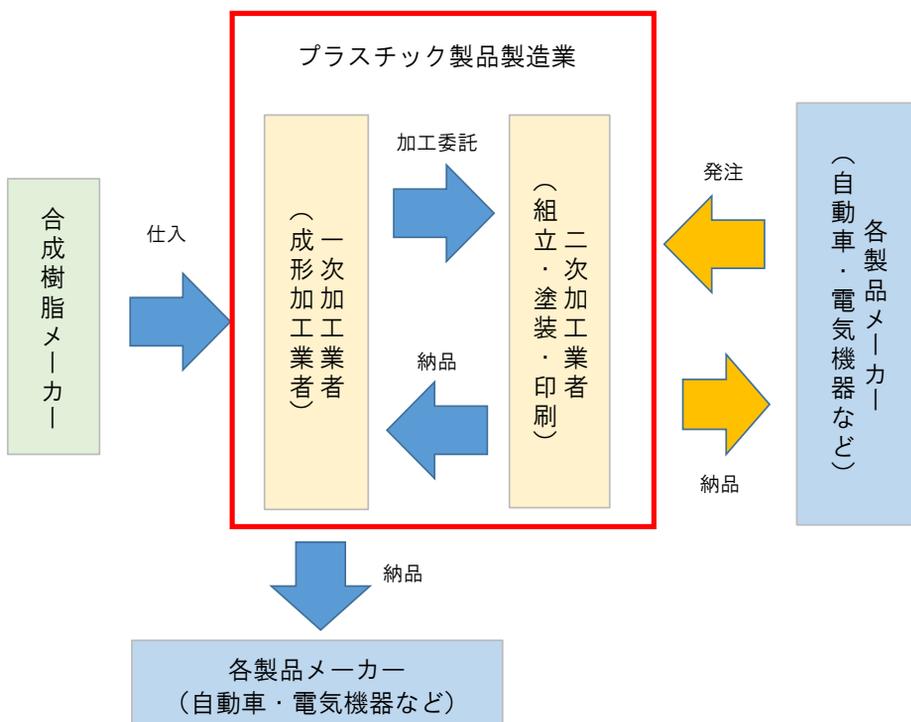
一次加工業者の多くは、自動車や電気機器など、組立産業の協力工場として、大手企業と直接取引を行っている。取引先からの要望に応じてプラスチック製品を成形し、二次加工業者に加工を委託している。

一方、二次加工業者の多くは一次加工業者の下請け企業となっており、一次加工業者から金型、材料等の支給を受け、プラスチック製品の組立て・塗装などの下請け加工を行っている。半数近くが従業員9人以下の零細事業者であり、納期の短さや輸送コストの面から、取引相手である一次加工業者の近くに立地しているケースが多い。

一次加工業者は、顧客である大手自動車・電機メーカーの要望に対応するため、高機能プラスチック製品の開発や高機能成形技術、デザイン、加飾技術等によって差別化を図っている。一方、二次加工業は零細企業が多く、一次加工業者の細かな要望に対応するため、少量の注文にも素早く対応できる小ロットの短納期生産の態勢を整えることで生き残りを図っている。

典型的な流通経路は下図になる。

プラスチック製品製造業のビジネスモデル



業界動向

プラスチック製品製造業界の販売額は、取引先の海外移転や、安価な輸入品の増加等の影響で減少基調で推移している。足元では、景気回復や円安による輸出品の増加などで、横ばい推移となっているが、石油価格の高騰や人口減少による国内の消費量の減少などが不安材料と言える。

【フィルム・シート製造業】

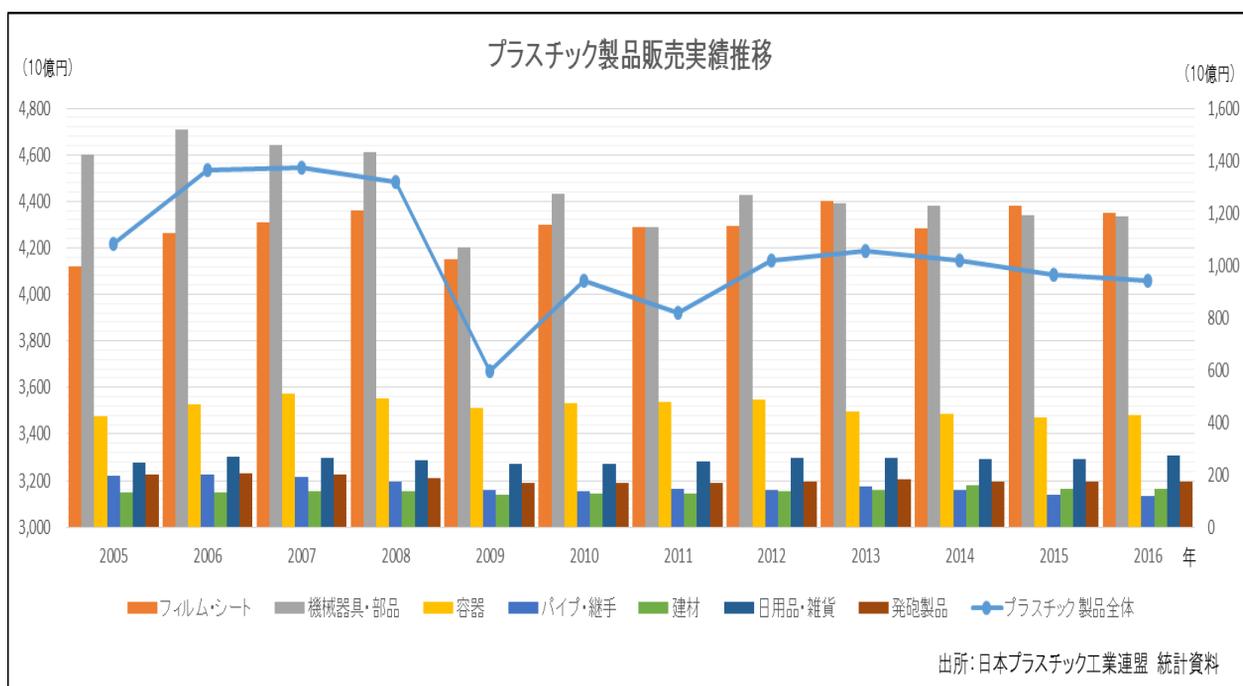
日常使用しているゴミ袋・レジ袋や食品包装を含む容器・包装材は、人口減少による需要減退が懸念される。また、プラスチックは腐敗・分解しない性質を持ち、焼却時に生じる二酸化炭素が地球温暖化の原因となり得るため、近年では環境に適した素材の利用が進んでいる。

【機械器具・部品製造業】

販売先となる大手自動車・電機メーカーの海外進出に伴い、機械器具・部品を製造する中堅・中小のプラスチック製品製造業者の中国、東南アジア、インド等への生産移転が進んでいる。

また、アジア諸国の低価格品に対抗するため、大量生産が可能な製品は、海外で生産、加工・組立てを行い、国内においては高付加価値製品や精密部品を生産するという住み分けが行われている。

プラスチック製品の中でも、特別な技術や設備を要しないものは、安価な海外製品に押されて市場が縮小傾向にある。そのため、近年は3Dプリンターの素材となるABS樹脂や微生物によって完全に消費され、環境に害のない生分解性プラスチックなどの高機能素材が注目されている。



財務指標分析

業界標準値
比較業界: 製造業全体

(安全性分析)

プラスチック製品製造業は、製造業全体と比べて自己資本比率と流動比率が低い一方、固定比率や借入依存度は高くなっている。特に一次加工業者において、他社との差別化のためには技術力や多品種大量生産への対応が必要であることから、積極的な設備投資を行っていると考えられる。

(収益性分析)

利益率は、製造業全体と比べて低い数値となっている。プラスチック製品は、他の製造業と比べて製品単価が低く、一社あたりの生産品種も多いことから、利益率は低くなりやすい。また、原料である原油価格が2000年代に入って急騰したことも一因であると考えられる。

(生産性分析)

生産性は、製造業全体と比べてやや低い。斯業種においては、一次加工業者から二次加工を委託される中小・零細企業の割合が高く、付加価値を創出しにくい塗装や組立てなどの下請け加工の比率が高いことから、生産性が低くなりやすいと思料される。

		プラスチック製品製造業	製造業
安全性	自己資本比率(%)	37.9	43.6
	流動比率(%)	157.9	186.7
	固定比率(%)	114.3	97.7
	借入金依存度(%)	35.8	32.6
収益性	売上高総利益率(%)	18.9	21.4
	売上高営業利益率(%)	1.9	2.9
	売上高経常利益率(%)	2.4	3.6
生産性	労働分配率(%)	72.1	71.9
	付加価値生産性(千円)	4,916	5,694

出所: 平成28年度中小企業実態基本調査報告書(中小企業庁)

与信管理のポイント

プラスチック製品は、非常に種類が多く、用途也多岐にわたる。そのため、まずは取引先が扱う製品について、きちんと把握しておく必要がある。特定業界向けの生産を行っている場合は、販売先業界の景気動向が業績に強く影響する恐れがあるため、調査が必要である。

斯業種は、大きくプラスチックの成形を行う一次加工業者と、組立て・塗装・印刷などを行う二次加工業者に大別される。いずれの場合においても、主要な取引先の把握が必要となるが、特に二次加工業者においては、受注を特定の一次加工業者に強く依存しているケースがあるため、与信を行う上では、主要な取引先の需要動向、回収条件等についてもきちんと把握しておきたい。

また、大手・中堅規模の一次加工業者であっても、大手メーカーが販売先であった場合には、支払いや回収サイトが不利な契約になっている可能性があるため、力関係の把握をしておきたい。特に大手一社に依存した経営であった場合には、契約切れや受注の急激な変動による業績の悪化が発生する可能性があるため、最終販売先の動向も注視しておく必要がある。

斯業種において、今後も長期的に生き残っていくためには、他社に対する優位な技術力を保有しているか、生産力の高い設備を有しているか否かが重要な要素となる。技術力がなく、開発・技術投資等を行っていないようでは、将来的に業績が下降していく可能性が高い。企業訪問の際には、設備が古くなっていないか、きちんと稼働しているかなども見ておきたいポイントである。

最後に、斯業界全体としては、原料となる原油の99%が輸入に頼っていることから、原油価格の上昇や、円安進行による輸入価格の上昇が、業界全体の収益性低下に繋がる点に留意しておきたい。

参考資料

中小企業庁：中小企業実態基本調査

日本プラスチック工業連盟

業種別審査事典（一般社団法人 金融財政事情研究会）

免責事項

リスクモンスター株式会社（以下、当社）は当コンテンツに掲載されている情報の正確性について万全を期しておりますが、当社は利用者が当コンテンツの情報をを用いて行う一切の行為について何ら責任を負うものではありません。